

2014年8月3日

トルコ・シノップ県シノップ中央市長 パキ・エルギユル様

脱原発をめざす首長会議
事務局長 上原公子
事務局次長 佐藤和雄

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

わたしたち、日本の「脱原発をめざす首長会議」は、2012年4月に発足し、現職、元職をあわせ現在100名近くが参加しています。

自治体首長の第一の責任は「住民の生命財産を守る」ことです。福島第一原発事故で学んだことは、たとえ経済効果が期待されるとしても、リスクの大きい政策は大きな犠牲を払う可能性の覚悟がいるということです。しかし、住民の犠牲の上に経済が優先されていいはずがありません。そして、子どもの生涯にわたる健康不安をもたらすようなものは、決して取り扱うべきではありません。

自治体の首長も自らの責任として、この事態に黙することなく、原発に依存しない社会「脱原発社会」をめざし、すみやかに省エネルギーと再生可能なエネルギーを地域政策として実現することを、積極的に進めていかなければなりません。

私たちは日本の市民として、福島原発事故の収束と原因究明も途上の中、日・トルコ原子力協定が締結され、日本企業による原発輸出が決まったことに対し、大きく失望し遺憾の意を共有しています。トルコは日本と同様に地震国です。活断層調査等の結果も公表されておらず、経済性の評価も不十分、何より地元自治体や市民が反対し合意形成がまったく不十分な中でこの決定を深く憂慮しています。

そのような中、貴殿がシノップ市長として原発建設反対を掲げ、また私たちと同様に、自治体首長として発信をされていることに、大変勇気づけられ、心より敬意を表明します。ぜひ、日本からも、トルコからも、連帯して声を上げ続けていけたらと願います。

敬具